橋本市生活支援体制整備事業広報紙

たすけ愛はしもと だより

第１５号
令和３年１２月

発行　橋本市社会福祉協議会　〒648-0072　橋本市東家 1-3-1　TEL33-0294

全国的に高齢化が進んでいますが、このことは橋本市でも同様です。そんな中、これからも自分たちが住む地域で、安心して暮らし続けるためには、いざという時に駆けつけてくれたり、ちょっとしたお手伝いを頼めるような地域を創っていくことが必要です。そのために、日ごろから声をかけあったり、気にかけあったりするような地域づくり「つながりのある地域」が大切です。

そのため、地域づくりの基盤となる「協議体」を市内各地区に設置し、住民のみなさんが主体となって話し合いが進められています。現在、9地区に第2層協議体が設置されています。協議体の進捗状況や地域の取組みなどを紙面にてご紹介します。

移動スーパー運行記念式

12月から始まった移動スーパーを記念して運行記念式が行われ、関係者が集まりテープカットが行われました。平木市長、大家代表（日の丸観光バス株式会社代表）から祝辞が述べられました。

12月13日（月）橋本市保健福祉センターにおいて「移動スーパー運行記念式」が行われました。

テープカットは、平木市長、小林市議会議長、堀内市議会議員、苅田第1層委員、神谷生活支援コーディネーター（学文路地区）、阪本生活支援コーディネーター（恋野地区）で行われました。

移動スーパーの実施主体は、日の丸観光バス株式会社です。新型コロナウイルスにより、観光業界には甚大な影響を受けました。大家代表は、従業員の働く場を模索していたときに、移動スーパーをしようと決めたそうです。

会社の強みは、車とプロのドライバーさんと接客のプロであるバスガイドさん。しかし、地域で買い物に困っている人を把握することは困難です。そこで、現在、橋本市で取り組んでいる、第2層協議体と協働することになりました。地域の強みは、地域の事情をよく知る地域の方々です。逆に、移動スーパーのようなハード面を克服することは困難でした。それぞれの強みを活かすことによって、必要としている地域

（裏面へ続きます）

へ必要なサービスを届けることができます。

早速、以前から要望のあった、絆♥学文路（学文路地区第2層協議体）と、あったか恋し野（恋野地区第2層協議体）がモデル地区となり、協議体において話し合いをつみ重ねてきました。最終、各生活支援コーディネーターと大家代表との話し合いで日程と販売場所等が決まりました。

大家代表との打ち合わせの様子

●移動スーパーが始まりました

学文路地区では3か所、恋野地区では1か所を販売場所としてスタートしました。それぞれの生活支援コーディネーターが事前に地域の方々に声をかけたりチラシを手配りしたり広く周知した効果もあって大勢の方にお越しいただくことができました。

買い物に来られた方にお話を伺うと「近くのコンビニが閉店したり、タクシー代4，000円を支払って遠くのスーパーまで行っていた。これからは週1回来てくれるので助かる」と聞かせてくれました。

全ての販売場所で共通したことがありました。新型コロナウイルスの影響で暫く外出することを控えていた地域の方々が、お互いの顔を見て元気な様子を確認しながら笑顔で話している様子でした。あらためて、買い物支援という側面と

同じくらい大切な力がある。それは、移動スーパーに行けば、必ず誰かと会えて誰かと話ができる場であることを確認しました。

身近な地域の中に、あたらしい交流の場を提供できたことは、日ごろから地域の人の暮らしぶりをよく知る生活支援コーディネーターだからこそだと思います。